

テーマ: 見えた自己課題

看護科2年: 成合 志穂

今回の合同学習ではカンファレンスについて学んだ。そもそのカンファレンスの定義や目的など、分かっているようで分かっていなかった。

カンファレンスとは様々な定義があつて、これだと決まったものがなく、難しく考えずに意見交換の場だと理解した。その目的としては、情報共有であつたり、多職種の意見をもらうことで多角的な視点でのアセスメントができ、より良い支援方法を考え、またチームの成長にも繋がる。実際に今回の合同学習でカンファレンスを行う中でそれを感じることが出来た。

介護福祉科の方は想像している以上に知識が豊富であり、考え方もすごく多様で感銘した。また、雰囲気が良く、それぞれが相手を尊重した態度で話し合いを行うことができた。そのため、話し合いも詰ることがなく、全員が率先して意見交換を行うことができた。話をまとめるのが上手かったり、いろいろな視点から物事をポジティブに見ることができている介護福祉科の方々に対し、自分の無力さを痛感した。これまでの合同学習で聴く力は少しは見についたと感じるが、伝える、読み取る力はまだまだ足りていないことが分かった。今後、経験の積み重ねや、知識を取り入れることで、少しずつでも能力を高めていきたい。今回カンファレンスについて学んだことを実践はもちろん、現場でも自分ができる範囲、例えば日々の業務の中の小さな意見交換や、朝礼などで実践できるようにしていきたい。そのためにも、日頃から患者様を観察し、アセスメントできる力を身につけられるように自己学習の習慣や、相手に聞き、伝える事が出来るコミュニケーション能力を高めるよう努力していきたい。とても有意義な2日間だった。

各職域への理解とその中での自己の役割を理解

看護科2年 北山 大策

実際に学習を行っていくと各事例の中でそれぞれのメンバーが抱いていた思いを知り利用者様あるいは患者様にどうなって行つて欲しいと思つているのか、その意思を理解することが出来ました。患者の違い、視点の違いはあれどその根底にある思いは“目の前のこの方がより良い生活を送れるように”というものです。そのために看護師として介護福祉士として目の前の人にどういった関わりをしていくのか、そして職種間で共有していく情報は何かをカンファレンスの中でより明確化していくことが出来ました。

実際の現場の中では医療者、介護者、地域連携科、リハビリ科など今回の学習で想定していた以上の職種間での連携が必要と実感しました。円滑なカンファレンスを行っていくためには各職域への理解とその中での自己の役割を理解、そしてそのために必要な日々の情報の積み立てを行っていく必要があります。六日市病院で働きながら学習に臨んでいるのですが、改めて看護師としてのカンファレンスの中での自己の役割も明確化することができました。

この先実際に、看護師としての自分が患者さんにとって今後“より良い生活の為”のカンファレンスの準備として何が出来るのでしょうか。それは次の3点です。

- ① 常日頃からリハビリを筆頭とした他職種間での情報共有をおこなっていく。
- ② 共有した情報あるいはケア経過を記録に残しておく。
- ③ 同職種間での共有と必要に応じての問題提起。

仕事の中での自分の役割を認識し現在の自分に何が出来るかを疑似的に考えることのできる有意義な機会となりました。



カンファレンス企画中



六日市医療技術専門学校

ニュースレター2019. 3月号 vol.2No.3

記事

平成30年度第3回 介護福祉科・看護科合同学習
「カンファレンスのもち方を考える」開催要項 P1
合同学習の学び(介護福祉課・看護科) P2~4

平成30年度第3回 介護福祉科・看護科合同学習

「カンファレンスのもち方を考える」

入学時から取り組んでいる合同学習は、両科でのグループワークや発表を通して、①物事に進んで取り組む(主体性)、②課題に取り組むプロセスを明らかにして準備する(計画力)、③自己の意見をわかりやすく伝える(発信力)、④相手の意見を素直に丁寧に聴く(傾聴力)など協働するために自身の業務遂行能力を高めることを目的としました。このことを連携の基礎にして、2年次の第1回には介護・看護の基礎的共通技術であるユマニチュードを自己に取り組む学習機会とし、その後の実習や臨床の場で活用しています。そして、第2回では排せつケアのオムツの知識・技術の構造化を図るオムツ吸収実験や着用体験しました。その中で色々な工夫によって、生きる意欲や生活の質の向上に繋がること、また多職種連携の意義を学ぶことができました。

そこで第3回となる今回は、多職種連携の方法としてカンファレンスを企画し、その考え方を深化させることをねらいとしました。カンファレンスの目的は①メンバー間の意見交換により情報の共有化を図りつつ、②多面的なアセスメントや意見交換による対象理解の深化と有益な支援方法を検討し、③信頼関係を構築させながらチームを成長させることにあります。2日間を通してカンファレンスの開催方法や自己の参加方法を学ぶこと、自ら多職種で活動する意味を、実際の事例をとり上げ多職種の役割や立場を考えながら学びました。

日時 平成31年2月26日(火)~平成31年2月27日(水) 1~4限目
場所 六日市学園 講堂
参加学生数 介護福祉科 2年生 17名 看護科 2年生 12名
学生委員 介護福祉科 大庭・藤井・松本 看護科 岩見・大石・北山

スケジュール

時間配分	方法	内容
【1日目】		
9:30~9:40	開会	
9:40~10:10	GW	カンフレンスの意義
10:10~12:00		カンファレンスの事例抽出
13:20~16:00		カンファレンスの開催にむけて具体的な準
【2日目】		
9:30~9:45	オリエンテーション	
9:45~10:15	GW	カンファレンス評価(視点)
10:15~11:15		シミュレーションカンファレンスの実施(第1回目)振り返り
11:25~12:25		シミュレーションカンファレンスの実施(第2回目)振り返り
13:25~14:00		グループとしての学びを抽出
14:00~14:30	全体発表	2日間で学んだこと
14:40~15:10	アンケート記載	
15:00~15:30	閉会式	





発表場面

多職種が連携してカンファレンスを行うために必要な事また、その学びをどう活用するか 2年間を通した合同学習の学び—自分にとって合同学習とは？

介護福祉課2年 渡辺 逸子

例えば；サービスを一着の洋服とすると右前身ごろ・左前身ごろ・後ろ身ごろ・襟・ボタン・袖口に分けることが出来る。それぞれのパーツを縫い合わせることがカンファレンスに例えることが出来る。きちんと縫い合わさってこそ利用者にとって心地よい着心地となるようにオーダーメイドの洋服（サービス）を提供していく事が大切だということを学んだ。

自分の担当分野をしっかりと把握して綺麗に一着の洋服が出来るように利用者のニーズに合わせてパーツを裁断出来るように心がけて行きたいと思う。時には補正したりもう一回採寸しなおしたり型紙を作り直したりが求められるかもしれないが、利用者を中心にそのことを行って行きたい。

今回の合同カンファレンスからは、情報共有のカンファレンス・申し送りカンファレンス・栄養サポートカンファレンス・皮膚トラブルカンファレンス・リハビリカンファレンス・デスクカンファレンスと様々な部分での話し合いが必要で、必ずしも問題が浮き彫りになってから話し合いの場を持つのではないことを学んだ。自分一人で考えたり、悩んだりせず実際の現場ではしっかりと発信していこうと動機付けをえることが出来た。現場実習と同じで（実際の場を与えられ）授業の中で看護師の立場になる人たちと、考え方や見方を共有出来、より現場に出た時におどおどしたり気おくれしたりせず同じ専門職として二人三脚で仕事をしていく事をしっかりと学ばせて貰った。

『多職種が連携してカンファレンスを行うために必要なこと、また、その学びをどう活用するか』

介護福祉科2年 野村 千代

今回の合同学習の一日目を欠席したので、2日目のシュミレーションカンファレンスを行っての学びについて記載したいと思います。

まず初めに、一日目を欠席したことで、『カンファレンスとは？』『その意義や目的とは？』というところが明確になっていない状態で、不安なままでのカンファレンス参加となりました。しかし、グループの仲間にサポートしてもらい、また、先に他班のシュミレーションカンファレンスを見せて頂いたことで、今回の合同学習の目的や方向性が見え、自分も参加者の一人としてスムーズに加わることが出来るように思います。

実際にシュミレーションカンファレンスを行ってみて気づいたことは、事前準備の大切さと、個人としての人間性や資質の向上が、よりよい支援に繋がるという事です。事前準備と一言でいいますが、会議を行う対象利用者への理解だけでなく、まず【今回の会議のテーマは何でどういったルールに基づいて行われるのか】【それに沿って自分が提供すべき情報はなんなのか】【他の参加者はどういった職種なのか、他職種に対して聞くべきことはなにか・・・】など、事業所内の情報共有、会議への理解、検討事項について考えや知識を深めておくことなど、より円滑に会議を進められるような準備をしておく必要があるということを感じました。また、個人の人間性や資質の向上という面では、ただ会議の場にいれば良いというような安易な考えではなく、参加者の一人であるという自覚責任感をもつことや、人の話を聞き理解する力、わかりやすく他者に伝える力、情報を多角的に捉える視点、発言力や想像力など、自分の能力を日々向上させる努力も必要であるということに気づくことが出来ました。

参加者一人一人が自分の役割を正確に理解し、また、他職種の職種についても理解を深めておくことで、会議自体の質も上がり、結果的にはそれがサービス利用者へ提供される支援の質の向上にも繋がるということを、今回の合同学習で学ぶことが出来たので、今後現場に出て会議に参加する際に実践できるようにしたいと思います。

また、今回の学びにも繋がっているのですが、1年次からの合同学習全体を通しての学びとして、普段あまり話すことがないような相手や集団の中で、自分がどう動けばテーマに沿ってスムーズにグループワークを運営できるのか、を個々が考えることや、相手を受け入れ尊重すること（他職種への理解を深めることや、その人自身の個性も否定しないなど）も重要であると知る事が出来ました。これを踏まえて、まず自分自身を見つめなおし、自分のいいところは存分に発揮しながら、相手を尊重した態度や言動がとれるのか、というところから日々学びを深めていければと思います。

チームケアでの「家族」の位置

介護福祉課2年 平木 大希

わたしは、今回の息子(家族)として参加しましたが、息子(家族)としてカンファレンスにどういう思いで臨まれているのかなと考えていました。職員の立場からすれば情報の共有だったり、これからの方針を各職種が集まって確認するなどといった目的でカンファレンスに参加されると思います。しかし、息子(家族)の立場としては、自分の身内(利用者)がどのようなケアをされるのかをさされてきたのかを知りたい、または息子(家族)として抱えている思いを伝えたいという思いで参加されているのではないだろうか。その息子(家族)の立場を考えた話し合いが昨日は出来てなかったのではないかと思います。今までどのようなケアをされてきて、これからどのようなケアをされるのかを知りたいのに、専門用語を用いて話されると息子(家族)としては話す内容が理解するのが難しいことも考えられる。昨日息子(家族)として聞いていて、参加しているけどただここにいるだけというのを感じました。

この二年間で、チームケアとして介護福祉士と看護師、理学療法士、医師など他職種間での連携は意識して出来たと思います。しかし、「家族」をチームケアのどの位置に意識するかということが出来ていないように思います。利用者のケアに家族の存在は大きいと思います。チームケアで家族をどのように活かすのか、それについて私個人の課題として考えていきたいです。



参加メンバーに話し合う内容の事前準備の大事さ(内容・時間・場所)

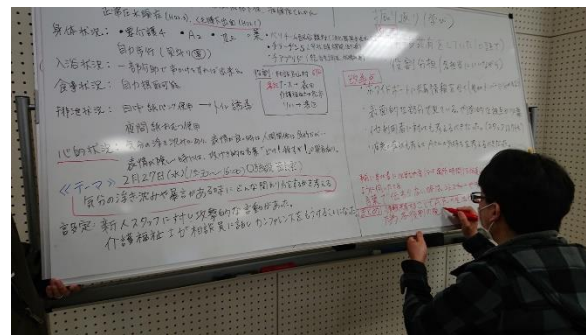
看護科2年 森田菜月

合同学習をする前は、他職種を交えて情報交換する事がカンファレンスだと思っていた為、始めにカンファレンスの意義・目的をグループ内で考えることにした。その中で朝礼の中でも看護師同士の申し送りをしていることもカンファレンスだと知る事が出来た。またカンファレンス行うだけを伝達しただけでは話し合いには発展しないと実感した。

実際にカンファレンスをする事を考えて場所・時間を考えることで行う他職種で話せる時間を確保して行う事が出来た。実際にカンファレンスを行う前に詳細（患者の生活状況、何のテーマで話すのか、時間・場所・日時）を共有することで各職種からの視点でみる事が出来たと思われる。いざ各職種になりきりカンファレンスしてみると意外と大変なことに気が付くことができた。今回はテーマとして「気分の浮き沈みがあり攻撃的な言動があるときにどんな援助をしていくかを考える」を議題とした。

また、私は看護師を担当してなりきることが出来た。しかし、他のグループメンバーから総評をもらった時に好きな事は花札などの表面的な部分しか見れていない事に気付かされた。疾患の症状により自分の言いたいことが言えない為、暴言や暴力になってしまうのではないかと考えて利用者の気持ちを読み取る視点が必要だと思われた。

まとめとして他職種を交えてのカンファレンスではしっかりと利用者の情報をとり利用者の気持ちをアセスメントし、本人が望んでいる援助を考え提供していきたい。



模擬カンファレンス

